

《第1部》 実績報告・業績予想

平成 21 年 12 月期決算説明会

1. 実施日: 2月17日(水)15:00~16:30
2. 会場: 東証ホール
3. 内容: 《第1部》 実績報告・業績予想
4. 説明者: 代表取締役社長 今井 明夫



~~~~~

お願い: 決算説明会資料『平成 21 年 12 月期 決算説明会』と合わせてご覧下さい。

### 《実績報告》

#### 〔平成 21 年 12 月期決算 連結業績〕

当社グループでは、平成 20 年 12 月に公表している中期経営計画に基づき、平成 21 年は“選択と集中”をキーワードといたしまして、ロイヤルホストの次世代モデルへの改装をスタートさせるとともに、不採算店舗の閉鎖や子会社の統合といった各種経営施策を進め、収益力の向上に注力してまいりました。

しかしながら、連結売上高は前年同期に比べて 81 億 99 百万円の減少となる 1,118 億 96 百万円となってしまいました。

一方、営業利益は6億 86 百万円増加し 17 億 63 百万円へ、経常利益は7億 25 百万円増加し 19 億 16 百万円となりまして、期初の収益改善計画を達成することができました。

#### 〔連結業績(補足)〕

しかし、期初に閉鎖を計画していた店舗の一部について、営業継続を決定したことなどに伴う店舗閉鎖損失引当金戻入額など総額 11 億 77 百万円の特別利益を計上する一方で、固定資産の減損損失や投資有価証券評価損など、総額 18 億 65 百万円の特別損失を計上いたしました。

また、法人税等につきましては、昨今の経営環境を踏まえまして、将来の課税所得見積りをより厳格に行なったことによる繰延税金資産の一部の取崩しなどを行い、16 億 89 百万円を費用計上いたしました。

その結果、4億 68 百万円の当期純損失を計上することになったものであります。

#### 〔セグメント別 売上高・営業利益〕

セグメント別の外部売上高につきましては、ホテル事業で 123 億 56 百万円に増収いたしましたが、外食事業では 902 億 97 百万円、食品事業では 35 億 25 百万円、機内食事業では 57 億 17 百万円となり、何れも減収となっております。

## 《第1部》 実績報告・業績予想

営業利益につきましては、機内食事業が6億42百万円、ホテル事業で4億79百万円計上いたしました。しかし、何れも減益となりました。しかし外食事業では、12億47百万円の増益により12億89百万円の営業利益を計上し、食品事業でも58百万円の増益となる3億30百万円となりました。

### 〔外食事業〕

それでは、セグメントごとの説明に移らせていただきます。

外食事業におきましては、不採算店舗を中心に直営63店舗を閉鎖したことや、消費者の外食控えの影響を受けまして、82億37百万円の減収となりました。しかし、適正なコスト管理、固定費の削減、不採算店舗の整理などを推進したことにより、営業利益を12億47百万円増加させることができました。

そのうちロイヤルホストでは、25店舗で次世代モデルへの改装を実施したほか、個人消費の動向に対応する形でリーズナブルな価格帯の商品を投入するなどの営業施策を進めましたが、57億6百万円の減収、3億97百万円の減益となってしまいました。

てんやにおきましては、4億87百万円の減収となりましたが、食材仕入価格の低減や人件費のコントロール等を重点項目として収益性の改善に努めたことで1億13百万円の増益となりました。

その他の外食事業におきましては、20億44百万円の減収となりましたが、高速道路の通行料金の一部引き下げによる交通量の増加に伴い、高速道路サービスエリア内における店舗が好調に推移したほか、1社を除く全ての外食事業会社で増益を果たしたことから、11億84百万円の増益となりました。

また、間接部門もコスト管理の適正化を進めたことから、3億47百万円の増益となっております。

### 〔食品事業〕

食品事業におきましては、新規顧客の開拓など販路の拡大に努めてまいりましたが、長引く個人消費の低迷により受注が伸び悩み、外部売上高が2億43百万円減少しております。

しかし、製造部門全体の生産性向上に注力した結果、58百万円の増益となりました。

### 〔機内食事業〕

機内食事業におきましては、一昨年7月に実施したM&Aによる増収効果があったものの、先進国の景気回復の遅れや新型インフルエンザの流行等の影響により搭乗客数が減少したことや、当社グループが機内食を搭載する路線が廃止・減便となるなどの影響を受け、全体では8億56百万円の減収となりました。

## 《第1部》 実績報告・業績予想

損益面におきましては、M&A 実施後の経営統合や適正なコスト管理に努めたことにより一定の成果は出ていますが、売上高の減少分を吸収するには至らず、営業利益は3億 98 百万円減少しております。

### 〔ホテル事業〕

ホテル事業では、平成 20 年に5軒、平成 21 年に4軒のリッチモンドホテルを新たに開業したことに伴う増収要因がありました。しかし、景気低迷の下で企業の経費抑制の影響を受けたことでビジネス需要が減退し、客室稼働率と客室単価が低下したことなどによりまして、全体では 11 億 38 百万円の増収にとどまっております。

更に新規開業費用や販売促進費用等の負担なども重なり、ホテル事業全体としては、2億 47 百万円の減益となっております。

### 〔収益力の向上／実績〕

ただ今ご説明いたしました平成 21 年における収益力の向上を、中期経営計画で掲げた施策に沿って説明いたしますと、ご覧のとおりとなります。

売上高の減少が想定より拡大したことに加えまして、ロイヤルホストの改装実施に遅れが発生したことなどから、減収に伴う減益額を吸収しきれませんでした。

しかしながら、不採算店舗の整理や分社再編・業務統合、外食インフラ機能の活用などは予想を上回る成果を出しており、全体としても予想を上回る収益力の向上を果たせました。

### 〔収益力の向上／各種経営施策〕

平成 21 年に実施した主な施策をご覧のスライドにまとめておりますが、その効果を認められたものについては更に進化させた上で今年も実施し、減収トレンドの下での収益力維持を実現していく計画です。

## 《第1部》 実績報告・業績予想

### 《業績予想》

#### 〔業績予想の前提〕

次に、平成 22 年の通期業績予想をご説明します。

今年は、海外経済の緩やかな回復を背景に、後半から国内経済の持ち直しも期待されてはおりますが、雇用不安や所得減少懸念は払拭されておらず、個人消費は引き続き停滞するものと想定しております。また、デフレを背景に、低価格化を推し進める企業間の競争状態も継続するものと想定しております。

したがって、スライドにお示しておりますとおり、各事業セグメントとも厳しい経営環境が継続する想定で業績予想をたてております。

#### 〔平成 21 年 12 月期 連結業績予想〕

この前提に基づき、平成 22 年 12 月期は、売上高 1,075 億円、営業利益 19 億円、経常利益 20 億円、当期純利益 1 億円と減収増益を予想しております。

#### 〔セグメント別 売上高・営業利益予想〕

次に事業セグメント別の予想をご説明します。

外食事業においては 5.9%の減収となる売上高 850 億円、営業利益は前年並みの 13 億 30 百万円を予想しております。

食品事業につきましては、ほぼ前年並みの外部売上高 35 億円、営業利益 3 億 20 百万円を、機内食事業につきましても、ほぼ前年並みの売上高 57 億円、営業利益 6 億円を予想しております。

ホテル事業の予想につきましては、前年に比べて 7.6%増収の売上高 133 億円、35.7%増益の営業利益 6 億 50 百万円としております。

【以上】